

茨城県育成バラ新品種候補

淡いピンク色の中輪バラ新品種候補「ひたち4号」(仮称)と 花弁縁が桃色の淡黄白色バラ新品種候補「ひたち5号」(仮称)の育成

農業総合センター生物工学研究所・園芸研究所

【研究の概要】

茨城県の県花であるバラは産出額約3億円で、主要な施設花き品目の一つです。しかし近年、花き需要の低迷や燃料費高騰による経営が圧迫されるとともに、全国で生産される品種の画一化により産地間の差別化が困難な状況になっています。そのため、県では他産地との差別化が可能なオリジナル性を有し、生産性が高いバラの育成に取り組んでいます。今回、淡いピンク色の中輪バラで花色や商品性に優れ収量性高く幅広い用途に適する「ひたち4号」と、花弁縁が桃色の淡黄白色の大輪バラで収量良く幅広い用途に適する「ひたち5号」を育成しました。



写真1 「ひたち4号」の花姿



写真2 「ひたち5号」の花姿

【「ひたち4号」の特性】

- 令和元年に所内選抜系統「1601」と「1603」を交配して得られた実生から選抜した系統です。
- 淡いピンク色の上品な花色(写真1)で、香りを有します。中輪のカップ咲きで花弁数は多いです。
- 多収性品種「アヴァランチェ+」と比較して採花本数(収量性)は多いですが、切花長、切花重及び茎径は「アヴァランチェ+」より小さいです。
- 日持ち性は普通です。
- 県内市場関係者、東京都中央卸売市場関係者からは花色と商品性の評価が優れ、幅広い用途に適すると評価されました。
- 現地試験では生産者が新品種導入の際に重要視する収量性や商品性等の形質は普通～良の評価でした。

【「ひたち5号」の特性】

- 令和元年に「つくばエクスプレス」と所内選抜系統「IRH-2」を交配し得られた実生から選抜した系統です。
- 花色は白～淡黄に花弁の縁がピンク色を呈する複色(写真3)で、ほのかな香りを有します。花形は半高芯半剣弁咲きの大輪です。
- 多収性品種「アヴァランチェ+」と同等の採花本数(収量性)であり、切花長、切花重、花蕾長及び茎径も「アヴァランチェ+」と同等です。
- 日持ち性は普通です。
- 市場関係者からは花形・ボリュームの評価が高く、小売りを中心に幅広い用途に適すると評価されました。
- 現地試験では生産者が新品種導入の際に重要視する収量性や商品性等の形質は普通～良の評価でした。

【将来の展望】

- 幅広い用途に供される高収量性の品種として利用が期待され、年間5.5万本の出荷本数が見込まれます。
- 今回育成した2品種は、令和6年に品種登録出願公表となった「紫峰」「ひたち乙女」とともに、県内バラ生産者の所得向上に寄与します。また、いばらきフラワーパーク等の関係機関と連携して、これら県オリジナルバラ品種をPRすることにより、茨城県のバラの知名度向上と県産バラの消費拡大につながることを期待されます。